

今の森の問題は
人のかかわれば防げた

松ヶ崎・・・かつての姿

- 生活の場
マツタケ、シメジ・・・虫捕り
薪をとり・運ぶ ●明るい森・元気な森
- アカマツの森＝妙法の送り火

子どもたちの自然あそび・学び

- プレイパーク&自然あそび教室
自然の中での自由なあそび
豊かな体験・知恵を伝える

シンポジウム・学習会の実施

- 森の問題・変貌の現状を伝える
- 知識・情報を伝え、行動へつなぐ

大学等との連携

●森の変容
劣化

●人のかかわりの遮断

公共的機能を失った
死んだような森

自然に基づく文化
森への理解・関わり方の継承

近年の松ヶ崎での取り組み

- エコ学区・地域と小学校
- 森・池の学習/森の手入れ体験
どんど焼き、しいたけ栽培・・・

森の将来像提案

- ・楽しめる森、明るく広々とした森
- ・四季折々の花、実、紅葉(こうよう)
- ・季節の変化に富んだ森
- ・野鳥や昆虫がたくさんいる森
- ⇒自由に歩ける密度の森
- 森の維持管理の難しさ

宝の森の活動発足

- 里山アウトドア
- ナラ枯れ木の炭焼き
森への還元
- 森の資源の循環と活動の循環

協働の近隣事例

地域の里山としての学校林

- 里山の学習
/伐っていい森・里山!
- 地域・学校・地権者・市
アジェンダ 21+企業 CSR
- 学校間連携
- 活動資金確保の工夫

★ボランティアの難しさ

協定書の必要性

●生活の場⇒
レクリエーションの場へ
地域と小学校の
つながり

- ★森の劣化を食い止める
- ★再生にむけての手立て
- ★住宅地の裏山としての
安全性維持

●地域やボランティア
だけでは対処不可能

大きな課題の認識共有
対策の必要性

- シイの大木化/カシナガ被害
- シカによる影響の拡大
下層植生の消失
実生発育阻害・特定種の繁殖
土砂の流出(地面の陥没)
農業被害
- ナラ枯れ・シカ食害木の倒木

京都市の事業

- 『新景観創造事業』
- 賑わいの創出
- 新たな公園景観づくり
＝新たに植樹
サクラ・モミジ・ツツジ・・・の山
- 高山からスタート
⇒池周り全体に
- 外国人へのアピール

共感/寄付金・企業 CSR
期待

国際会館と景観

- ランドマーク的施設
- 2つの視点場
・池畔から比叡山へ
・会議場内から池、山へ
- 50周年周囲の自然と
一体となった施設景観

みんなで・地域が協力
して維持するために

森でつながる物語の重要性
人が動くインセンティブ
『プラットフォーム』

●防災の視点

課題解決・合意形成 協働・共感(汗)にむけて

協議の場

協議会

<課題>マネジメント/継続のしくみ/事務局運営

事務局担い手の
『覚悟』表明!

宝が池の自然環境をしっかりと守っていく組織に!

将来プランニング検討

森林の姿を考える＝一緒になってできることを

提案・発信

●緊急対策
(公園として)

- 立ち枯れ危険木
処理対策

●緊急対策
(植物保護育成等)

- 防鹿柵の設置
・貴重な植物保護
・母樹、実生育成
・再生促進
・土砂流出抑制
+ 農業被害防止
- シカ捕獲環境の整備
- ナンキンハゼ伐採
- ナラ枯れ落枝・丸太処理

プランにもとづく行動へ

